

■ 令和4年度川崎市教科用図書選定審議会意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語ではQRコードがあるので、発音やリスニングなどが生の声が聞けるので、とても良い。</li> <li>●社会科ではQRコードがなかったが、どれも資料が充実し、カラフルな写真がついておりとても良い。資料の方の考え方については、2つのものを対象とし比較する方法や、時系列によって考える方法など子どもたちの考え方についても言及して考え方の視点を示している。学んで終わりというようにつくりではなく、しっかりと振り返りを行い、また、子どもが自分で学習が進められるようなステップになっており、最後には次に繋がるような、自分で考えて自分で次何をするかというようなとても丁寧なつくりになっていて、考え方が深まってよい。</li> <li>●国語では、論理国語で、文学的な作品なども説明的な作品になるという意味で、論理国語に含まれていてもいいのではないか。</li> <li>●文学国語の方では読ませることにとっても力を入れている。</li> <li>●同じ会社の中でも厚さや内容が違ったものがあり、生徒の進度や興味によって教科書を選べるようになっていところも良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●川崎市立高校は全日制、定時制合わせて9校あるが、どの学校も生徒の実態や興味・関心に応じた教科書を適切に選んでいる。</li> <li>●ICTの活用について、どの教科書に二次元コードが記載されており、英語であれば発音の音声の流れたり、随所に工夫が見られる。ただし、中には関係省庁のホームページにリンクするだけのものもあるとのことで、二次元コードをどのように授業に生かしていくかについては、その授業方法について十分な準備が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に手に持ってみて、教科書が重い。</li> <li>●国語の教科書で、長文に読み上げ機能のQRコードがついていると効率よく学習ができるのではないか。</li> <li>●成人年齢18歳に引き下げられ、親権が通用しなくなることについて、教科書の内容を含めながら、どの程度教員が教えられるのか。</li> <li>●高校の数学は微分、積分等の専門的な内容を学ぶが、何のためにその学習をするのかといった目標が教科書に明記されていると、子どもたちの意欲に繋がるのではないか。</li> </ul>
特別支援学校等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●表紙についている☆の数で難易度が分かりやすくなっている。</li> <li>●内容についてはどれも文字が大きくルビが振られ、学ぶ内容が分かりやすくなっており、読んだ時の子どもたちの達成感が感じられるような使いやすい教科書になっている。</li> <li>●検定教科書から作られた拡大教科書については、元の教科書から文字を読みやすく大きくし、ボランティアの手作りで見やすく切り貼りして作られているものがあり、とても分かりやすいものになっており、子どもたちも学習しやすいものになっている。</li> <li>●検定教科書以外の附則9条の方の教科書について、実際には検定教科書と附則9条図書を手にすることができず、どちらか1冊ということになるのが少し残念だが、逆に附則9条教科書を手にした場合には、現段階では使えなくても、後々の学習の時に使えるようになるということも利点になる。</li> <li>●同じ教科書で一人一人に対応するのはとても困難で、様々な教科書から選ぶことができるということはとてもいいこと。</li> <li>●中身もとてもカラフルで、分かりやすく、教科書の絵を見たりとか、風景をみたりとか、子どもたちから言葉を引き出すようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高等学校にも言えるが、特別支援学校及び特別支援学級の教科書については、より児童生徒の実態に即したものが選ばれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援級の実態として、実際に採用されている教科書を使っているよりも、プリント学習が多いのではないか。</li> <li>●拡大教科書はとても楽しそうだと思う。</li> <li>●☆本は支援学校で就労できるような子どもには合うが、☆本だと厳しい子どももいるのではないか。</li> <li>●支援級や支援学校の子どもの実態として、ICTに興味を持つ子どもが非常に多いという中で、できればICTを使いながら学習できる形になると良い。</li> </ul>

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援学校、高校の教科書に関して非常に丁寧なつくりになっている。</li> <li>●高等学校については、学校ごとの特色、それぞれの学校のスクールポリシーに基づいて、教科書はどれがいいというのは、現場の先生方の意見が非常に大切になってくる。また、特別支援学校、特別支援学級に通われる児童生徒が数としても増えており、障害の程度や学びの進度も千差万別な中で、日々、各学校の先生方が、障害の特性などを踏まえながら、教育活動を展開していくには、現場の先生方の意見に基づいた選択は非常に重要だと思う。</li> <li>●市内の学校が一緒になって研究する調査研究会があることが本当に素晴らしいと思う。</li> <li>●川崎市が何を目指しているのかということをしっかり踏まえ、教科書選定を進めていただければと思う。</li> <li>●どういう子どもを本校では育てていきたいのか、そのためにはどの教科書がふさわしいのか、そういった視点で選んでいると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語は、小学校も中学校もデジタル教科書がすごく進んでいる。高校の方も教科書会社が同じような発想でQRコードを必ずつけるようになっていて、非常に音声面でも充実してきていると思う。ほかの教科も同じような形でQRコードが活用していけばよいと思うが、ほかの教科書を見たらQRコードが載っていなかったのも、より活用できるような方向で動けばよいと思う。英語に関しては、子どもたちがGIGA端末で、短時間であっても個々が自分で選択して学習できるようなものが授業の中でも作られているので、高校の学習においてもそういったものが取り入れられるとよいと思う。また、特別支援学級についても、QRコードが取り入れられれば、よりアクセスできるようになると思うが、テキストにはなかったのも、今後の課題になると思う。</li> <li>●特別支援学校、学級についても、コロナの感染拡大が始まってから急激にICT活用については推進していかなければ状況があって、高校についてはQRコードが載っていたり、教科書とICT関連の活用についてリンクされていたりするが、特別支援学校の教科書についてはまだ十分にリンクされていないところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちが読んで、参考になりそうなこういう業界で例えばこんな数学の知識を使っているというような事例が載っているものもあった。子どもたちにも、数学を何のために勉強するのか見えにくい科目なので、参考にしてもらえればよいと思う。ただ、ただ全ての教科がそうではないので、いろんなバックグラウンドの先生がいて、本当に川崎市は恵まれているので、授業で事例を提示しながら進めていただければ、子どもたちも学習の目標がつかみやすいと思う。</li> </ul>